

平成29年3月3日に行われた中学校卒業式で祝辞として話されたことを中心に政策秘書課職員と話した内容です。

未来は私たち次第

2月末、中学3年生のみなさんと先生方に無理を言って、「みんなが50歳になる2050年頃の長久手市が、こうだったらいいネ」と一言、書いてもらいました。

「ゴミのないまちがいいネ」「徒歩や自転車で移動できるまちがいいネ」「自然が残っていたらいいネ」などのほか、「高齢者が住みやすいまちがいいネ」「子どもが安心して遊べる公園があったらいいネ」など、自分以外の世代にも思いを馳せる意見が数多くあったことに感心しました。

長久手中学校では、「運動ができる場所があるといいネ」や「自然がたくさん残っていたらいいネ」、南中学校では「犯罪や交通事故のないまちがいいネ」、北中学校では「香流川がキレイだといいネ」の意見がありました。

これから市では、中学生を始め、多くの市民の「こうだったらいいネ」の声を集めていきたいと考えています。たくさんの声を集めると、将来の長久手を考えるときの道標になります。

こんな風にちょっとでも、まちのことを考えた経験の一つ一つが、「長久手が、自分のふるさとだ」と感じることに繋がります。そうした経験を重ねることで、進学や就職で、一旦、長久手を離れても、また必ず、長久手に戻って来ようと思うのではないのでしょうか。

卒業式前の大変忙しい時期に、ご協力をいただいた卒業生のみなさん、先生方に改めてお礼申し上げます。

卒業式の最中に、ふと、こんなことを思いました。

2050年は、超高齢人口減少社会で悲惨な時代になると思っている人も多いけれど、私は、素晴らしい時代になるはずだと。

なぜなら、誰も経験したことのない人口減少社会は、脇目も振らず、山の頂上1点を目指した時代とは異なり、



北中学校卒業式

立ち止まったり、ゆっくり考えたりすることができる社会になると思うからです。

誰も経験したことがない社会なので、何が正解なのか誰にも分かりません。私たちの一人ひとりの考え方、行動次第で、きっと素晴らしい時代にしていくことができるはずです。

～市長の話を聞いて～

2050年、私は70代後半になります。私の「だったらいいネ」は何だろうと悩みながら考えた結果、「歩いて行けるところに、居心地のいいしゃべりの場があるといいネ」でした。そういう長久手にしていくために、今の私ができることは、70代後半になっても元気で近所へ歩いて行けるように、今から歩く機会を積極的に作ることでしょう。

2050年を想像することは、自分自身の今の暮らし方を見直すことにもつながると思いました。

同じことを同僚に聞いてみたら、私にはない発想の答えで、面白いなあと思いました。ぜひ、みなさんも一度、周りの方に、「2050年頃の長久手市が、どんなまちになっているといいネ」と質問してみてもいいでしょうか。